

天才アート KYOTO®



天才アートとは、障害
のある人やひきこもり
者などの多くがもって
いる優れた感性と表

現力、そこから湧き出る独創的なアート
作品に対して、NPO 法人 障害者芸術
推進研究機構（天才アート KYOTO）
が独自にネーミングしたものです。当
機構は天才アートを推進し、その啓発・
普及活動を積極的に行っています。



発行日 2023年6月20日（火）

発行者 特定非営利活動法人
障害者芸術推進研究機構

天才アート KYOTO

発行所 〒603-8226

京都市北区紫野西舟岡町2番地

ふれあい共生館「きたアトリエ」

info@tensai-art.kyoto

http://tensai-art.kyoto

編集協力 株式会社 三六六

天才アート

検索



藤原 佳弘「国旗シリーズ」 ペン・タックステンド 210×297mm 2018 年制作

展 覧 会

予 告

23年度の展覧会などの予定

第11回『天才アート展2023 OPEN STUDIOS』(入場無料)

会期 2023年9月30日(土)～10月15日(日)、11時～17時(火曜日休館)

会場 当機構「きたアトリエ」
京都市北区紫野西舟岡町2

本年度で第11回目となる『天才アート展』を右記の会期で開催します。

コロナ禍で、2020年よりアトリエを会場に開催してきましたが、終息も見込まれることから来年度以降、市中のギャラリーを会場とする形態に戻す予定です。

『OPEN STUDIOS』として、アトリエを



昨年度開催の『第10回天才アート展2022 OPEN STUDIOS』

会場に開催するのは今展が最後となります。多くの方のご来場をお待ちしています。

主催 NPO法人障害者芸術推進研究機構

共催 京都市 京都市教育委員会

助成 公益財団法人大阪コミュニケーションティ財団

特別協賛 (株)SCORPIONホールディングス

特別助成 一般財団法人NSSHA財団

『東山区人権啓発展示』(入場無料)

本展は、12年3月まで当機構の「新道アトリエ」があった地元・東山区役所を会場に15年より毎年開催されています。市民や観光客も訪れやすく好評です。お近くにお立ち寄りの際はぜひご覧ください。

会期 2023年8月8日(火)～25日(金) 9時～17時(土・日・祝日休館)

会場 京都市東山区総合庁舎1階 展示ホール(京都市東山区清水5-130-6)

主催 京都市東山区役所

協力 NPO法人障害者芸術推進研究機構
内容 作品ポスターパネル30点を展示予定

第58回日本発達障害学会京都大会 協賛『天才アート展 at 京都教育大学』(入場無料)

第58回日本発達障害学会京都大会に協賛し、全国から募集される研究者や同大学在学学生を対象に知見に資するものです。一般市民にも公開されます。

会期 2023年10月24日(火)～11月4日(土)、9時～21時(土曜は17時まで)

※会期中、10月29日、11月1日・3日休館

会場 京都教育大学附属図書館1階企画展示室(京都市伏見区深草藤森町1)



主催 特定非営利活動法人障害者芸術推進研究機構

協賛 日本発達障害学会第58回研究大会

内容 作品35点を展示予定

第7回『公共空間にアートの彩り!』展

B1判サイズの作品ポスターパネル50点を地下道中央の柱に展示予定。

会期 2023年12月上旬～2024年1月下旬(予定)

会場 四条通地下道(麩屋町通下～柳馬場通下間約100m)

主催 NPO法人障害者芸術推進研究機構
協力 京都市・阪急電車

『青空美術館』継続展示中!!

13号 京都市立呉竹総合支援学校 校舎新築工事囲い堀 25年夏頃まで(予定)

14号 京都市協二条駅前店 建設工事現場 本年10月末まで(予定)

15号 京都市立北総合支援学校中央分校 施設整備工事現場 24年3月まで(予定)

※建設工事を予定の施工主・建設会社で掲示を希望の場合はお問い合わせください。

muratec



その夢は、未来に続く。

ムラテックは未来を見据えた柔軟な発想力と先進の技術力で、豊かで夢ある社会の実現をめざします。

村田機械株式会社

本社 京都市伏見区竹田向代町136

<https://www.muratec.jp>

- 繊維機械
- ロジスティクスシステム
- ファクトリーオートメーション
- 半導体工場FAシステム
- 工作機械
- シートメタル加工機
- デジタル複合機/情報機器

新任理事・職員のご挨拶

理事 浅野 理々



今年度、新しく理事に就任しました京都市教育委員会総合育成支援課の浅野理々です。私は、長らく肢体不自由や知的障害、視覚障害の子どもの教育に関わって総合支援学校教員として勤務し、ここ10年は市教委総合育成支援課で校種を問わず、障害のある子どもの教育に携わってきました。美術に関する専門的知識はありませんが、今までの経験を生かしつつ、皆さまからいろいろと学ばせていただければと思っております。

総合支援学校勤務時代、小学部児童の「ダイナミックアート」を見学したことがあります。屋外テントの床と周囲を白模造紙で包んだスペースに絵の具や筆、刷毛などがふんだんに用意された中で、子どもたちが自由に描画する活動でした。子どもたちは思い思いに絵の具を塗りたくり、とても生き生きと活動していました。次第にそのスペースに飽きたらず、自分の身体へもペイントを広げ、また、絵の具の付いた身体を

スタンプとして紙に写し取り、その色と形を楽しんでいました。普段、おとなしく、口数も表情も少ない児童も喜々として活動しているその様子を見て、その子の年齢や発達に合わせたわかりやすい材料と好奇心を刺激する環境、安心して活動できる場があれば創作の意欲を発揮できるのだと大いに感じました。

昨秋、京セラギャラリーで開催された2022年秋季特別展「細部に宿る」では、その内容の豊富さ、展示の美しさに圧倒されました。作品は精細で緻密なものから、勢いのある活力に満ちあふれたものまでさまざま、目を見張ると同時に感激しました。今年度、「きたアトリエ」「東山アトリエ」

で活動を生で拝見できるようになって、その感激はさらに増しています。いきなり下絵なしに淀みのない線を描き始められたり、特徴的な絵をコピーしたかのように一気に再現して描かれたり、緻密に細部まで丁寧に描いたり塗ったりされています。独特の感性を豊かに表現された作品と制作中の真剣な眼差しに大変引き込まれます。

感性に合わせて自由に選べる材料が用意され、安心して取り組める環境があると、人は集中して楽しく創作活動ができるといううことを見せていただいています。

こうした作家の活動の場のさらなる充実や拡大、新たな作家の発掘、育成を通し、学校教育の枠を超えた社会への働きかけとして、微力ながら当機構の一端に寄与したいと考えます。

皆さま、どうぞよろしくお願い致します。

アートコーディネーター 和田 美佑



2023年3月に京都芸術大学こども芸術学科を卒業し、4月から特定非営利活動法人障害者芸術推進研究機構（天才アートKYOTO）に入職しました。和田美佑と申します。

大学では幼児教育を学びながら、芸術やあそびを用いてこどもの感性と表現力を引き出すことを専攻していました。それにプラスし、産学連携プロジェクト「HAPii」というホスピタルアートのプロジェクトに2年間参加していました。ホスピタルアートとは、病院にアート

を持ち込むことで、暗い、冷たい、怖いといった怖いといつ

た病院へのマイナスイメージを和らげ、病院を利用される方や、そ



産学連携プロジェクト「HAPii+」で制作したアート作品

こで働く医療従事者の方々への心のケアを目的にしたプロジェクトです。私はそこで廊下壁面などに描くイラストのデザイン担当とリーダーを経験し、病院を利用する方々の抱くさまざまな気持ちに寄り添えるデザインをメンバーと考案していました。

私が天才アートKYOTOに入職を決めたきっかけは、この場が社会にとって必要な場所であると強く感じたからです。私は「障害のある人が描いたものだから障害者芸術」とまとめるべきではないと考えています。作家さんの中には見たもの、聞いたものを形にする方や、その時その時に感じた目には見えないものを可視化する方もいます。一人ひとりが違った技法で違った表現をします。私はそれらを「障害者芸術」という括りで壁を作って見てしまうのは違うのではないかと考えています。この障害という壁を打ち壊すために天才アートKYOTOがあると、研究報告書を見せていただいた時に感じました。登録作家への指導を行わないという方針も、登録作家を一人のアーティストとして尊重することをとて

も大切に行っている部分だと感じています。私も天才アートKYOTOの一員として、障害のあるなしに関係なく、価値のあるものがアートとして認められてゆく世の中になるお手伝いができればと思います。

新卒のため初めてのことも多く、至らない点も多々あると思いますが、登録作家の皆さまが心地よく活動できるよう、精一杯作品のプロデュースなどのサポートを行いますので、よろしくお願い致します。



『アオダイショウ』
画用紙・色えんぴつ
392×546mm
2022 年制作

TENSAI
ART
NOTE
天 オ
ア ア
ー ト
ノ ー ト

高島 晃平

高島 晃平 Takabatake Kohei 1991 年生

高島は、時に何枚もの全紙大の画用紙を貼り合わせ、クレパスを用いてダイナミックにカラフルな動物や鳥たちを描きます。しかし、最初からそのような画風だったわけではありません。当初は現実の動物の姿に近い絵を描いていました。そして、長い時間をかけてゆっくりと現在の画風を築き上げていったのです。現在の想像力に溢れたカラフルな動物たちの作品を、ただの画風の変化と捉えれば味気ないとも言えるでしょう。別の見方をするのならば、高島は継続的に描くことによって、現実の動物たちを、彼独自の想像の世界へと誘うことができるようになったのかもしれない。

久保 直己

久保 直己 Kubo Naoki 1986年生

久保は、自身が生活する中で出会った魅力的な人物を描きます。そして同一人物を同じ服装で何度も描いたり、服装を変えたりしても描きます。そのどれもが、久保流ともいうべき独特のデフォルメで描かれますが、描かれた人の雰囲気やイメージが容易に想像でき、今にも語りかけてきそうで、実際に会えば「ああこの人だな」とすぐにわかる写実性も内包しています。



『中島さん』 画用紙、えんぴつ、クレパス
364×257mm 2023年制作



『男の人』 画用紙、えんぴつ、クレパス
364×257mm 2022年制作



『男の人』 画用紙、えんぴつ、クレパス
364×257mm 2022年制作

『あほうどり』
画用紙・クレパス
790×1,095mm
2021年制作



服部 可菜恵

服部 可菜恵 Hattori Kanae 1994年生

服部は、花や植物を油性ペンと鮮やかな色彩のアクリル絵の具を用いて描いています。作者独特のシンプルな形状へとデフォルメされつつも、どの花や植物も愛らしく生き生きとしており、どこか「人」のようにも見え、一本一本の花が互いに会話をしているかのようにも見えます。どの服部作品も花や植物に対する彼女の優しい眼差しを感じることができます。



『ホタルブクロ』 画用紙、ペン、アクリル絵の具 540×380mm 2020年制作



『アスター』 ケント紙、ペン、アクリル絵の具 543×392mm 2021年制作

ご家族さま
より寄稿

息子（義輝）のアート活動に思うこと 若林 桜子

●何かを作ることに夢中の子どもの頃

義輝は、4歳の頃に自閉症スペクトラムとADHDと診断を受けました。現在25歳になります。天才アートKYOTOに通い出したのは、18歳からです。呉竹総合支援学校に高2から通い、卒業したら会えなくなる友達が天才アートKYOTOに行っているの、そこで会えるようにと誘ってもらったのが出会いです。同じく、主治医の村松先生からも情報をもらっていました。子どもの頃から、何かを作ることに夢中になり、泥だんご、紙粘土で怪獣作り、陶芸や仏像彫刻にも興味がありました。絵を描くことも好きでした。



大好きなメロンを食べる（2012年8月）

義輝は、小中学校は枚方市の地域の学校に、高校から大阪の支援学校に、高2で京都に引越してきました。小中学校時代はいじめや不登校などつらい経験もたくさんしてきました。学校生活の授業時間は、落書きタイムが時間つぶしだったのです。でもその落書きだけは、クラスメートたちも

「見せて!」と言ってくれたのです。そんな絵を見た近所に住む年下の友達のお母さんが、義輝の絵の才能を気にかけてくださり、「義輝くん、絵を描いたら見せてね! できたら自然の絵が見たい」と。それから交流が始まり、ハガキサイズの紙に絵を描いて持つて行くようになりました。

また、旅行先の宿で無心に何枚も描き出したり、自然や神社などに触れるとゾーンに入ってしまった時がありました。天才アートKYOTOに入会する時、「作品を何点か持って来てください」と言われたのですが、家には作品がなかったもので、友達のお母さんをお願いして、渡していた作品をお借りして面談に行きました。恥ずかしながら、私はただの落書きだと思っていたので、捨ててしまっていたのです。義輝も、当時は描いたら満足して、作品に執着はありませんでした。友達のお母さんは、義輝の絵をファイルにして題名もつけて大切にしてくださっていました。また、義輝の絵のファンなので、「天才アートKYOTOさんに預けて、世に出してあげてください」と愛のある助言を受けて、今があります。それが、アーカイブに載せてもっている初期の作品です。

●絵を描くことで居場所を得る

その後、支援学校を卒業して就労するの

ですが、1カ月で体調不良となり、アトリエやつほうさんに通所することになりました。家から歩いて行けるし、同級生も何人かいて、当時は陶芸ができるからという理由で選びました。でも、スタッフさんから絵をすすめられたのと、他のアーティストさんにも感心されて、いきなり不思議な模様の絵を集中して描くようになり、びつくりしたことを思い出します。

義輝は、小中学校でのいじめ、人から厄介者扱い、存在がないものとされて、不登校にもなりました。でも絵を描いたら、初めて認めてもらい居場所を得たのです。穏やかで、幸せそうでした。その後、また引越

生懸命頑張ろうとする。また、義輝の成長でもあるのですが、他の人と自分を比べて、コンプレックスから、諦めてしまうことが多くなりました。徐々に精神状態が不安定になり、自分は居ても居なくてもいい存在。空気がみただと、自分らしさを出せず苦しみのに我慢していましたが、とうとうその事業所を辞めたいと言って、今年からヒーローズさんに通所しています。ビールの仕事を、絵も描いているようです。私は、しばらくは絵から遠ざかっても良いと思っていました。でも、創作ができる環境、安心できる居場所が大切なんだと、はつきりわかりました。

ストレスに弱く、ストレスの正体が分かりづらいです。いまだにはつきりとした理由はないです。でも、絵が描ける居場所があること、集中して作品に向き合える場所があること、シンプルにこの一択だと思っています。現に、事業所ではスラン

お母さんと作った絵本
「おばけの国へ... よしきとまおがおじゃましまーす」

プでした。天才アートKYOTOでは描いていました。通う回数は減っていましたが、それでも出席した日は時間いっぱいまで創作していたようです。

●特性に合わせた創作活動の大切さ

子どもの障害特性で、できないことに日々、支援の時間を費やしてしまいがちですが、個性や特性の一部をクローズアップすることで、全体の生活が安定することがあります。

ひとりとして同じ障碍の人はいませんが、人それぞれのオーダーメイドの生活で、子どもが集中してやっていることを芸術として捉える視点を持つと、本人と家族も豊かな気持ちになり、新しいステージに立つことができます。芸術がわからなくても、専門家の方々の視点にかかれば、捨てていた落書きも宝物に変わります。天才アートKYOTOさんの取り組みは、子どもたちの心地良い居場所のために、さまざまな活動に従事してくださっています。

ひとかたならぬご尽力をいただき、感謝申し上げます。今回はこのような機会を与えていただき、ありがとうございました。



初期の作品「心ゆっくり流れてる」は、京都市上下水道局が販売する飲料水のボトルに採用

展覧会

報告



『天才アート2023 in ふしむ』

京都市南部の伏見区で初めてとなる『天才アート2023 in 伏見』展を「アトリエ悠」さまのご協力により、ゴールデンウィークを含め1カ月間開催しました。

アトリエ悠は、市内でも有数の商店街である大手筋に近く、京都市伏見中央図書館や伏見区総合庁舎の並びにあり、近鉄や京阪電車の駅からも徒歩数分と交通至便の好立地にあります。会期中、多くの方のご来場をいただきありがとうございました。

会期 4月29日(土・祝)～5月28日(日)
会場 アトリエ悠

(京都市伏見区新町7-463-1)
主催 NPO法人障害者芸術推進研究機構
共催 京都市 京都市教育委員会

トピックス

レポート

株式会社村田製作所が ロビーにギャラリーを開設

世界的な電子部品メーカーの株式会社村田製作所さまが、当機構所属作家の作品にご注目をいただき、長岡京市にある本社1階ロビーにギャラリーを開設されました。

本年1月より、作家2名の作品をレンタルにより先行展示されていましたが、このたび別途制作依頼の上、お買い上げいただいた作品を新たに加えられました。本作品は当機構所属の大場多知子さんの作品「大きな祭り」を見られたご担当者から、「当社の電子部品をテーマに描いていただけないか」との要望を受けたものです。部品の現物を手に取った大場さんが、その精緻さやカラフルな色彩から着想を得て制作を始めて、約5カ月をかけて完成し納入しました。

5月15日(月) 17時30分より、同社代表取締役会長村田恒夫さまご出席のもと、本社1階ロビーにて作品の「お披露目会」が開催されました。作者の大場多知子さんもお招きを受け挨拶をされました。ご出席の同社役員や社員の方々も、京都盆地を埋め尽くす細密な電子部品群とチャリデザインングのロボットが躍動する画面に魅入っておられました。これから本社を訪れる内外の多くの取引先の方々にもご鑑賞いただけるこ



本社1階ロビーで開催された作品お披露目会



作品を挟んで村田恒夫代表取締役会長と大場多知子さん

とでしよう。
なお、作品は50号キャンバスにアクリル絵具で制作、タイトルは「洛中洛外電子図」です。

山田繊維(株)さまの「ふろしきSDGS LIFE 2023」に協力

5月19日(金)～21日(日)の3日間、京都文化博物館別館を会場に「サステイナブルで楽しい暮らし」、「ふろしきの今」を体験しよう」というテーマで、山田繊維(株)さまが「ふろしきSDGS LIFE 2023」を開催され、天才アートKYOTOも協力させていただきました。

会場入り口には、当機構をはじめ協力団体の紹介パネルが設置され、会報などの印刷物も置いていただきました。また、同社には水玉みりさんと土屋彰男さんの作品を「アール・ブリュットふろしき」として企画・販売していただいております、会場にはその取り組みの紹介とともにふろしきがディスプレイされていました。

会場では、参加型の楽しいワークショップやスタンプラリーなどが企画され、入場者は約1500人、そのうち500人ほどの方がスタンプラリーを通してSDGsやふろしきの体験をされたそうです。



当機構紹介パネル設置コーナー

企業・団体の助成、協賛の募集

当機構の運営予算の多くは、企業さまや団体さまの助成金や協賛金などによって支えられています。

NPO法人として2011年の活動開始以来、登録作家は15名から45名と3倍になり、『天才アート展』や『青空美術館』などの各種展示事業、作品収蔵と作品アーカイブ事業、『会報』発行などの広報事業等々幅広く取り組んでいます。

展示や協同事業などのオフアワーが年々増えてきており、画材費の高騰などとともに資金の確保が常に課題となっています。さらに多くに企業などのご助成やご協賛の支援をお願い申し上げます。

【特別協賛などの企業さま・団体さま】

(株) SCREENホールディングスさま

一般財団法人 NISSHA 財団さま

(株) 村田製作所さま・村田機械(株)さま

＜編集後記＞

5月8日(月)、3年の長期にわたった新型コロナウイルスの感染症状上の扱いが、季節性インフルエンザや麻疹と同じ「5類」に引き下げられました。それに伴って当機構でも、感染対策を万全に実施し、休日アトリエと平日アトリエ会とも、従来と変わらない態勢で開催しています。

また、本年度も株式会社SCREENホールディングスさま、一般財団法人NISSHA財団さまをはじめ、京都の企業・団体から支援を頂きました。この場を借りて心より御礼申し上げます。

新年度がスタートし、当機構でも理事と職員に新しいメンバーを迎えました。フレッシュな感性と行動力で、ますます天才アートKYOTOの態勢充実に力を発揮していただきたいと思います。

HAGURUMA



【表紙の作品について】

藤原はステンドグラス調に表現できる「タックスステンド」という画材を用いて、生物や国旗をモチーフに作品を制作します。彼の手によって生まれる生物や国旗は簡略化され、どこか語りかけてくるような親しみやすさと、そのどれもが力強い生命を宿しているかのよさに感じられるのが特徴です。国旗シリーズも単なるアイコンではなく、しばしば国の文化や歴史そのものを象徴するものです。私たちが見慣れた国旗一つ一つにも由来があり、それらを知ることが他国の歴史と文化を理解することにつながります。彼は、その最初の入口を作っているのかもしれない。



藤原 佳弘「国旗シリーズ」
ペン・タックスステンド 210×297mm
2018年制作

画材・額縁
画箋堂
京都・河原町五条

一級建築士事務所
町家・古民家再生 / マンション改修
**(株)共立ホーム
エンジニアリング**
06 (6788) 5402 kap@hyper.ocn.ne.jp

お客様に寄り添い、安心と安全をお届けします
総合リスクコンサルタント
株式会社プラニ
☎ 075-353-2522

京都上鳥羽
の
印刷会社

MORI
(有) 森田美術印刷

京都市南区上鳥羽火打形町12 ☎ 075-692-3131

妙心寺 塔頭

養徳院

永代供養のお寺 075-461-2898



吉村建設工業(株)

京都市中京区西ノ京小倉町135番地
075-802-1360

SCREEN

一般財団法人

NISSHA 財団

夢、そして誇り。この街で…
洛和会ヘルスケアシステム®

洛和会丸太町病院 洛和会音羽病院 洛和会音羽記念病院
洛和会音羽リハビリテーション病院 洛和会東寺南病院